

Initiative for Global Arts & Sciences

YOKOHAMA National University

朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集
制作 AERAハック編集部



ワークショップ型のパラグアイ事情の授業。藤掛洋子教授(中央)の呼びかけに、学生がスペイン語でこたえる(上)。日本語に対応するスペイン語やアラビア語をふせんに書きだしていく(下左)。教育人間科学部4年生の大橋怜史さんは「来年3月まで9カ月間、JICA ボランティアでパラグアイに渡航します」と目を輝かせる

「地域課題実習」がある。フィールドワークを通して、地域の人々とプロジェクトの成果を共有する。例えば東京・大田区

区工場街をどう再生するかといった課題に対する解決策を探り、地域に提案していく、というものだ。

横浜国立大学

YOKOHAMA National University

2017 国公立大学 進学のおすすめ BUILD YOUR FUTURE

真のグローバル教育と 文理融合改革が進行中

「本学は、これまでも理念の一つに国際性を掲げてきました。近代日本で初めて開港した横浜に立地し、もともとグローバル化への意識が高い大学という背景があるので、近年とくに英語による講義が増えていきました。例えば「YCCS特別プログラム」という、英語による授業のみの留学生対象プログラム。この授業は、留学生だけでなく日本人を含め全学部生が履修できるのです」

「日本にいなから、さまざまな国の留学生と一緒に学べるのだ。さらに、中村理事は続ける。『経済学部・経営学部共同のプログラム「GBEEP」では英語による専門科目を一定単位修得することが必要です。また、理工学部では、「ROUTE」と呼ばれる海外の理系協定大学で研究することもできます。卒業後に大学院工学府に進学した場合は、2年間すべての講義が英語で行われます」

「それに加え、異文化適応力の養成にも力を入れている。全学部生共通の科目「世界事情」では、経済成長が著しい中国・ブラジル、ベトナム、パラグアイなど八つの新興国や地域の社会、文化、宗教、商習慣について、現地語の基礎とともに学ぶ。また、留学とは別に国際協力を携わる実践的な海外派遣の機会もある。『外国語でのコミュニケーションによる体験を成長の糧にしてほしいと考えています。国際協力の例では、ネパール地震の被災支援のため現地を調査したり、本学と協力を結んでいるJICA国際協力機構を通じて、青年海外協力隊短期隊員としてトンガとキリバスの農村に生活改善指導に行ったりしています」

「こうした実践的海外派遣によって海外で活躍できる人材を育てるのが、横浜国立大学が掲げる教育改革の一つの柱である。『文理融合による実践的な学習』だ。一例として、文系理系を問わず全学部生と大学院生が参加



「地域課題実習」の一つ「おたけプロジェクト」の先導的役割を担った地域の人々との共同作業

Campus Topics

1 理工学部の制度 「iROUTE(アイルート)」で世界トップクラス大学への派遣も

「iROUTE」(international Research Opportunities for Undergraduates)には、二つのプログラムがある。一つは、海外の大学から招聘された研究者の集中講義を受けられるプログラム。2015年度は、ミラノ工科大学とカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の教授が講義を行い、最終日には学生の中から成績優秀者が選ばれた。もう一つは、指導教員の共同研究先である海外の大学で、短期間研究を体験できるという。海外の大学と共同論文を書くことにも挑戦できる。iROUTEに参加するためには、まず1年次から最先端の研究に参加できる制度「ROUTE(ルート)」に参加する必要がある。ここで、早い段階から研究の面白さを知ることができる。



ROUTEの立ち上げた中心となった前川卓理工学部教授と研究室の学生。ROUTEに参加して配属されたのは、修士2年生で、対等な実力を持った学生もいます(前川教授)

2 経済と経営両学部が相互乗り入れ 世界で活躍するビジネス人材を育成「GBEEP(ジービーブ)」

今年4月に新設された、経済学部と経営学部共同の教育プログラム「Global Business and Economics Educational Program」(GBEEP)。世界で活躍するビジネスパーソンの育成が目標だ。経済学と経営学を相互に学ぶことができ、英語による専門科目(GBE)も受講する。経済学を専攻とした場合は経営学が副専攻に、経営学を専攻とした場合は経済学が副専攻になる。また、海外の協定大学への交換派遣留学などによる単位取得が必須。経営学部のダニエル・ヘラー教授は「GBE科目では留学生と一緒に授業を受けることもあります。ベトナムの大学の学生と相互に大学を訪問し、共通テーマについて発表し合う授業もある。



ダニエル・ヘラー教授とGBEEPに所属する1年生9名。この日は、外食産業について発表は英語で行われることもある

「国際協力について学び、現場で人々と最善のプランを計画実行する経験を積むことで、多様な立場の人々を理解できるようになってほしい。それは国際協力だけでなく、どんな社会や企業でも役に立つはずだ。学部改編により、横浜国立大学はこうなっていくのか。今後の展望を中村理事はこう話す。

「将来、世界で活躍する学生を応援できる仕掛けをつくってほしい。文系の学生が理系の学生とつながりあいがあいながら思考を深め、理系の学生が歴史や人類学を学びながら都市のことを考える都市科学部は、本学の核となっていくでしょう」

「21世紀に入り、世界経済の光と陰の部分が顕著に表れてきました。先進国から中国をはじめとした新興国、途上国に経済成長の軸が移ってきている。一方で環境問題やテロ、地域紛争という社会課題が増大しています。そうした変化の激しいグローバル時代に対応するためには、経済学、工学といった単独の分野で解決策を考えるのは難しい。そこで本学ではさまざまな分野で連携する「文理融合」の教育を進めています。人文系、社会系

「新興国や途上国に解決策を示せる学生を育てる」として、専門性とともに対人コミュニケーション力や行動力を身につけることが、本学の実践的な人材育成です。

また、本学が立地する横浜は、国際都市でありながら少子高齢化などグローバルな課題も抱えています。これらに対応するため、都市科学部を開設しました。人文社会、建築、土木、環境の専門領域からなる一つの分野として、新たに「都市科学」を提唱し、都市をさまざまな角度から捉え研究します。他学部の学生も対象

横浜から世界へ グローバル・エクセレンス大学をめざして

～世界をフィールドとする実践的な学術拠点～



YNU オープンキャンパス2017 8月5日(土)・6日(日)

- 各学部・学科個別のイベントの他、留学相談&英会話体験コーナーも設置します。
- YNUならば約40か国100校以上の海外協定校の中から交換留学先を選ぶことができます。
- 留学相談コーナーでは、留学費用、留学先での生活、単位取得、就活等、留学に伴う各種の相談に、教職員と留学を経験した学生が対応します。また、留学に必要なレベルまで英語力をアップさせる方法について在学が伝授します。
- 英会話体験コーナーでは、留学生と英語でのおしゃべりを楽しむことができます。

横浜国立大学は留学を志す学生たちを全力で支援しています。
詳細は▶<http://www.ynu.ac.jp/exam/ynu/open-campus.html>
地震などの大規模災害等(緊急事態)に備えるため、参加希望の方は上記より事前登録を行ってください。

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University
〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

2017 国公立大学 進学のおすすめ BUILD YOUR FUTURE

変わりゆく大学入試は 受験生に何を求める

徐々に具体的になってきた大学入試改革の方向性を踏まえ、創立60周年を迎えた大学受験予備校・代々木ゼミナールが新たな施策を次々に打ち出している。『アエラ』の片桐圭子副編集長がその狙いを高宮敏郎副理事長に聞いた。

大学入試はすでに 変わり始めている

片桐 2020年度(21年1月)から実施予定の「大学入学共通テスト(仮)」のサンプル問題が5月に公表されました。高宮さんはこれをどうご覧になりましたか。

高宮 数学もこれまでとは違う答え方を求める点で目新しい出題でしたが、特に驚いたのが、現代文が小論文に近い内容だったこと。今の高校カリキュラムの中ではなかなか対策しづらい分野だと思えます。

片桐 題材も、駐車場の契約書などこれまでとはかなり違うものを扱っています。高校生がそのような文書を目にする機会はずいぶん戸惑ったのではないのでしょうか。

高宮 今回提示された問題は、あくまで身のまわりの様々な言葉や文章を題材にするという方針を示したもので、「これからは契約書の勉強だ」というのは早とちりだと思えます(笑)。いずれにしても今年11月に実施される5万人規模のプレテストが終わるまで全体像は見えていないですね。

片桐 ただ近年はこうした改革を先取りしたような新しい取り組みを始める大学も増えています。

高宮 そうですね。私立大学はもちろんです。国立大学でもそうした傾向は顕著になっていきます。昨年は東大の英語で、これまでにならぬ記述問題が出題された。二のミスを繰り返したうえで、論理的な帰結としての第3パラグラフを書きなさい、といったものです。また入学後のカリキュラムやコースでも、従来の国立のイメージを覆すようなユニークな試みが多くあります。代ゼミでは、受験生が悔いのない選択をできるように、大学のそうした新しい動きを丁寧に紹介するようにしています。

大学名より大切な 「何を学んだか」

片桐 このところ、昔ながら首都圏の有名私立大を目指したという層が、地元国立大の国立大に進むなど受験生の「内向き志向」が強まっているといわれます。新テストの導入でこうした傾向にも変化が表れるのでしょうか。



SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表 学校法人高宮学園 代々木ゼミナール 副理事長 教育学博士 高宮敏郎さん

たかみや・しろう / 1997年慶應義塾大学経済学部卒業。三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)を経て、2000年学校法人高宮学園に。米ベンシルベニア大学で大学経営学を学び、教育学博士号を取得。09年から副理事長。現在、SAPIX小学部、SAPIX中学部、Y-SAPIXなどを運営する株式会社日本入試センター代表取締役副社長などを兼務。



朝日新聞出版「アエラ」 副編集長 片桐圭子さん

かたぎりけいこ / 1992年に北海道大学を卒業。毎日コミュニケーションズ(現・マイナビ)を経て95年に朝日新聞社に入社。ASahiパソコン、アエラ、宇都宮総局、教育ジュニア編集部などを経て、2014年から現職。教育、働き方、事件、芸能などをカバー。小2の娘がいる

高宮 特に初年度は受験生の心理的負担が大きいため、全体的に手堅い出題になるだろうと思えます。しかし、仮にそのための難関大学の倍率が下がれば、翌年は一気に反転する可能性もあります。状況が落ち着くまでは数年かかるのではないかと考えます。

片桐 海外大学に進学することも今はそれほど特異な例でなくなっています。受験生にとって選択肢はほとんど広がっていますね。

高宮 だからこそ、合格が可能な範囲で偏差値が1でも上の大学を選ぶ、といった発想でなく、本当に学びたいことが学べる大学を選んでほしいですね。卒業した大学の名前で将来が約束される時代ではありません。

片桐 日本の大学入試はこれまで、共通1次試験やセンター試験の導入など何度か改革を経験してきました。今年で創立60周年の代ゼミは、過去の対策の実績がある分、有利な面がありそうですね。

高宮 しかし、文部科学省が「明治以来の」というような大きな改革はこれまでに例がありません。準備期間も少ないので、対策が難しいことは確かです。サピックス代ゼミグループとしては、スカイプを使ったオンライン英会話スクール(ベストティーチャー)や論理力評価テスト「SRT」に加え、AI(人工知能)の研究を通して見えてきた日本の若者の読解力低下を踏まえて、国立情報学研究所などと共同開発したリーディングスキルテスト

高宮 本気で学ぶ若者を応援し続けたい

高宮 今後、教の上ではすべての進路希望者に大学の席が用意されている時代がくるかもしれない。1年間余計に頑張っても高い目標を目指したいというニーズがなくなることはないでしょう。一方で、今の高校には収まりきれない生徒たちのための「N高校(ネットの通信制)高校運営は角川ドワンゴ学園)のような新しい学びの場にも積極的に協力していきたいと思えますし、多様な教育ニーズにしっかりと応えていきたいですね。本気で学びたい生徒を応援する親身の指導という根幹は、今後も決して変わりません。

片桐 私自身、ひとりの親として子どもの学ぶ環境に期待するのはそのことです。今後の代ゼミにも注目しています。本日はありがとうございました。



代々木ゼミナール 教育総合研究所 所長 佐藤雄太郎さん

大学入試改革で大きく変わる英語

2020年度からの大学入試では、大学入試センター試験に代わる共通テスト(大学入学共通テスト)において、国語と数学に記述式の問題が導入され、英語も4技能評価(聞く・話す・読む・書く)に変わります。また、「一般・推薦・AO」の入試区分を見直し、「一般選抜」学校推薦型選抜・総合型選抜(いずれも仮称)として、それぞれの選抜方法をより明確にする案が検討されています。

特に大きく変わるのは英語と言えます。英語は、民間団体が実施する資格検定試験(以下、民間資格検定試験)と、大学入試センターが認定し、「認定試験」として入学者選抜に活用される仕組みが検討されています。しかし、制度の変更に伴う受験生や高校、大学への影響を考えると、2023年度までは、共通テストの英語試験(読む・聞く)も実施する方針が示される予定です。共通テストの英語は、各大学の判断により、民間資格検定試験と併用(共通テストの英語試験)のいずれか、または、その両方を用いる方法に変わっていくでしょう。

これまでの大学入試は、大学入試センター試験を含め、学習指導要領に準拠した、学力を測るための、選抜のための試験が前提です。しかし、民間資格検定試験は、技能の到達度を測る試験もあるため、目的が必ずしも「選抜のため」とは限りません。また、指導要領に準拠したのもあれば、そうではない試験もあり得ます。受験資格も、教育課程(小学校や中学校、高校)などに関係なく、ほぼ、無学年です。年齢や時期を問わず受験することもできます。

2020年度からの大学入試英語の受験にあたっては、「選抜のための試験」と「そうではない試験」が並列するため、それぞれの試験に合わせた勉強や、大学が活用する試験の把握、受験する時期などを考慮する必要があります。

代ゼミでは、各大学に対応した英語の講座に加え、英検やGTEC、TEAPなどの検定試験対策講座をいち早く開講しており、文法、読解、英作文が三位一体で学べる「Trinity総合英語」も新テスト対策として有効です。

これからの大学入試で特に必要となる英語4技能や国語での記述力・表現力は、一朝一夕に身につくものではありません。日々の学習を通してコツコツ力を積み上げていくことが、ますます大切になると考えられます。

Advertisement for Daigakuseminar featuring student testimonials and the slogan '合格ラインを、ぶっちぎれ。' (Beat the passing line).

Large advertisement for Daigakuseminar detailing '一人ひとりに合った「希望実現型プログラム」で志望校合格へ!!' (Achieve your dream school with a program tailored to you!!). It lists various courses like '大学別入試対策講座' and '英語4技能対策'.